



「南海トラフ地震に備える」 防災パネル展

パネルだけでなく、津波の大きな力で折れ曲がった標識など、震災の被害について考えさせられるものも展示ぜひ、この機会にご覧ください。

展示期間▼9月9日(土)～17日(日)

会場▼2階ハイビジョンシアター 入場無料

対象▼どなたでも

内容▼震災の記録や教訓を次世代に伝えるとともに、道路が果たす役割を広く紹介。

主催▼国土交通省四国地方整備局

徳島河川国道事務所企画課

徳島県土整備部高規格道路課

なつかしのへや

※6月に大雨のため、中止となってしまった「なつかしのへや」。9月に開催できることになりました！

日時▼9月29日(金) 14時～(13時30分開場)

会場▼2階ハイビジョンシアター 入場無料

対象▼どなたでも

内容▼懐かしい写真を紹介、昭和を振り返る紙芝居也

■なつかしい昭和を振り返る大人のためのおはなし会を3年ぶりに開催。北島町内朗読ボランティア「もくせい会」のみなさんに紙芝居など上演していただく予定です。

北島トラディショナル・ナイトVol.26 鞆座(ふいござ)の夜 躍動するイリアン・パイプスとアコーディオンの調べ

10月21日(土) 午後7時開演 (6時30開場)

会場：3階多目的ホール

出演：鞆座(ふいござ)

藤沢祥衣(ふじさわ・さちえ)【アコーディオン】

金子鉄心(かねこ・てっしん)【イリアン・パイプス、ティン・ホイッスル、ソプラノ・サクソ】

鞆座は、アコーディオンやイリアン・パイプスなどの鞆(ふいご)を使用した楽器による独特のサウンドを基調とした、アコースティックユニットです。

前売り券販売所

小山助学館本店、フクタレコード、アーロンズ、

ジャクソンズ、エミール音楽院

北島町立図書館・創世ホール

電話での予約受付も可能です。

お気軽に北島町立図書館までご連絡下さい。

入場料：大学生・一般 前売2,000円(当日2,500円)

小・中・高 前売1,500円(当日2,000円)

主催：北島トラディショナルナイト実行委員会

(小西 080・6386・2946)

共催：北島町立図書館・創世ホール

協力：徳島アイルランド音楽愛好会

後援：アイルランド大使館、CUETV、

徳島ギター協会

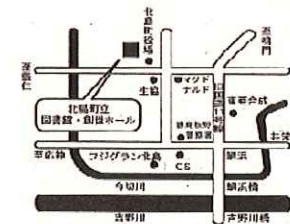


※創世ホールに来場される方へ※

▼入場される方の、マスクの着用は個人の判断に委ねることとしております。

▼令和5年5月8日からは座席数制限を解除し、貸しホールイベントについては主催団体等の判断に委ねるものとしています。

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

故郷・沖縄における

金城哲夫さん顕彰の実践②

南風原(はえばる)町観光協会・元事務局長＝藤原政勝さんに聞く

収録◎2022年5月16日◎はえばる観光案内所★聞き手＝小西昌幸

小西●10代でご就職されてからのことをお聞きしてきましたが、その後、沖縄に来られた時期や、いきさつをお教えてください。インタビュー冒頭部分で「20代前半に自動車関連の仕事に従事していた。それで色々行き詰って、事情があって徳島を後にした」という趣旨のことを話されていましたが……。

藤原★20歳代で自分の工場をもつことが出来ましたが、経営経験のなさ、技術だけでは経営はできず、多くの人にご迷惑をおかけしました。

その後、故郷を離れ関西の方に行き、レンタカー会社で働き、昭和47年(1972年)に転職することになります。友人の紹介で鹿児島島の整備工場に行く話がありましたが、その年の沖縄の本土復帰を知り、少し休養を兼ねて1週間ほど滞在しようと、船で沖縄に着きました。

沖縄に来て、偶然知り合った人から「あなた、自動車関係お詳しくですが、時間ありますか? 実は法律が変わって困っているんです。ちょっと教えてくれませんか」という相談を受けまして、そして出かけた先が南風原(はえばる)町だったわけです。それでそのまま沖縄に住むことになったんです。31歳のときですね。

小西●やはり不思議なご縁ですねえ。沖縄というか南風原町に招かれたということなのではないでしょうかねえ?(笑い)。

藤原★昭和47年(1972年)5月に沖縄が本土復帰して、日本の法律が変わったので、自動車関係もすべて各種書類が変わり、検査証も変わった。車を持っている人は全員困ったわけです。

その後、家庭も持って、自動車整備関係の仕事に追われていましたが、43歳のときご縁があって、知り合いの商事会社に移りました。65歳の定年まで一生懸命働きました。

小西●その商事会社を、平成18年(2006年)に退職されて、そのときが65歳なんですね。そこから南風原町観光協会、金城哲夫さん再評価の関わりが出てくるわけですね。

藤原★ええ、まだそのときは関わってないんですが、65歳で退職をしたときに、南風原町が、戦争遺跡のガイド(沖縄陸軍病院壕)の講習会を開催するというので、それに応募して講習を受けました。

終了後、平和ガイドの会を結成するとのことで行政担当者から会長に指名され、それから南風原町の文化活動に関わるようになりました。

平和ガイドの会を任意団体からNPO法人にしたり、南風原町の旧字(きゅうあざ)12字のマップを作ったり、南風原町物産展を開催したり、色々自分たちの町を掘り起こす作業を町の人たちと一緒に取り組んでいきました。

その過程で、ウルトラマンの脚本家・金城哲夫さんの実家が南風

原町にあることを知りました。ただ当時はあまり町内でも多くは語られていませんでしたので、地元の子どもたちも、金城哲夫さんについての知識がなかったのです。

これから子どもたちが県外に行ったときに「南風原町には何がある?」と尋ねられた時に「南風原町には、ウルトラマンを作った脚本家の金城哲夫さんがいた」と自慢できるようにしたいと思い、町の人たちに呼びかけました。

小西●私などの感覚からしますと、南風原町は金城哲夫さんの出身地というだけで「何という凄いな町だろうか!」と思ってしまう。このことだけで、南風原町には潤沢な観光資源があるではないかと考えるのですが、地元の方は意外に「自分の町には何も無い」と考えがちですね。まあ、どこもそうなんでしょうけど。

藤原★ええ。この、観光協会を作るまでは、南風原町では金城哲夫さんという方はあまり名前も知られておらず、金城家自体もあまり表に出したくなかった。

哲夫さんの亡くなり方が事故死でしょう。

小西●お酒に酔って、2階の仕事部屋に入ろうとして転落されたことが原因で、お亡くなりになったわけです。それについても深い事情があると思います。私は、深く同情します。

そして作品は、決して風化することはない。それを生み出した金城哲夫さんの名は、私たちの心に刻まれて、輝き続けています。ここで改めて、私(小西)がキチンと金城哲夫さんのすばらしさを、強調しておきたいと思います。池田憲章さんの北島町創世ホールでの講演会(「脚本家・金城哲夫～特撮とドラマを初めて融合させた人」、2011年2月27日)のチラシは私が手けたのですが、チラシには次のような惹句(宣伝文)を入れました。

自信と確信を持って言えることですが、これは、今後50年たっても全く揺らぐことのない普遍的評価です。

《一九七六年二月二十六日、故郷沖縄の病院で金城哲夫は息を引き取った。二十三日に不慮の事故にあったのだ。享年三十七。あまりに短い生涯だった■だが金城が築いた円谷プロの初期ウルトラ・シリーズのみずみずしさは、近年ますます輝きを放っている■聴覚障害の青年五郎の友人・巨大猿ゴロー、交通事故で死んだ少年の守り神・高原竜ヒドラ、天涯孤独の少女を見守った伝説怪獣ウー、そしてけなげな友好珍獣ピグモン……■金城哲夫の作り出した哀切の物語は、今もなお私たちの心を激しく震わせてやまない■「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」「怪獣ブラスカ」「怪奇大作戦」など円谷作品の王道路線を敷いた金城は本土と故郷沖縄の狭間で深く傷つき、苦悩した■その金城哲夫の人と作品について気鋭の研究者・池田憲章氏が渾身の情熱を注いで熱く語る! 多数ご参集下さい》

金城さん関係の文献や資料を読んでいたら、海洋博のリハーサルに朝からお酒に酔っぱらって顔を見せたということがあったようです。そうしたら周囲の人は心配しますよねえ。

一般に、家族がお酒に依存してゆくと、まず家族は心配してお酒を隠しますよね。本人がそれに気づくと家中を探して回ったりする。演劇の中では、サトウキビ畑にお酒の瓶を隠していたと描か

れていましたね。

藤原★家の周囲がサトウキビ畑でしたからね。

小西●私は金城さんに深く同情します。人間だから色々なことがあるわけで。でも、彼の残した作品は永遠の輝きを放っていると思います。これは揺らぐことはない。そして南風原町の皆さんを心の底から、うらやましく思います。

藤原★金城さんと私は二つ違いですね。彼が昭和13年生まれ、私が昭和15年ですから。

小西●なるほど。金城哲夫さんの業績のすばらしさについて、どのような形で呼びかけられたのですか?

藤原★平成24年(2012年)10月に陸軍病院壕ガイドの会や南風原町物産展で知り合った町民に呼びかけて《金城哲夫とウルトラマンのまちづくり住民会議》を40名ほどで結成しました。

その後、観光資源が何もないといわれた南風原町で、平成25年(2013年)に《一般社団法人 南風原町観光協会》を結成し事務局長となりました。

そして金城哲夫を取り上げた「ヒーローのまちづくり事業」として専従職員を一人配置して事業を始めました。その後、観光協会が中心となり、金城家や行政と協働で事業を進めています。(続く)

▼下図版は2011年2月27日に開催した北島町立図書館・創世ホールでの池田憲章さん講演会「脚本家・金城哲夫～特撮とドラマを初めて融合させた人」のチラシ。

池田憲章 講演会
脚本家・金城哲夫
特撮とドラマを初めて融合させた人

日本特撮の世紀は、そのときから始まった

一九七六年二月二十六日、故郷・沖縄の病院で金城哲夫は息を引き取った。二十三日に不慮の事故にあったのだ。享年三十七。あまりに短い生涯だった■だが金城が築いた円谷プロの初期ウルトラ・シリーズのみずみずしさは、近年ますます輝きを放っている■聴覚障害の青年五郎の友人・巨大猿ゴロー、交通事故で死んだ少年の守り神・高原竜ヒドラ、天涯孤独の少女を見守った伝説怪獣ウー、そしてけなげな友好珍獣ピグモン……■金城哲夫の作り出した哀切の物語は、今もなお私たちの心を激しく震わせてやまない■「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」「怪獣ブラスカ」「怪奇大作戦」など円谷作品の王道路線を敷いた金城は本土と故郷沖縄の狭間で深く傷つき、苦悩した■その金城哲夫の人と作品について気鋭の研究者・池田憲章氏が渾身の情熱を注いで熱く語る! 多数ご参集下さい》

講演会日時：2011年2月27日(土)午後一時三十分～三時
会場：北島町立図書館・創世ホール(北島町立図書館内) 北島町立図書館・創世ホール(北島町立図書館内) 北島町立図書館・創世ホール(北島町立図書館内)
入場料：無料
お問い合わせ：池田憲章(098-888-1100) 池田憲章(098-888-1100) 池田憲章(098-888-1100)
主催：池田憲章(098-888-1100) 池田憲章(098-888-1100) 池田憲章(098-888-1100)